

私 が 変 わ る 、 世 界 が 変 わ る

Freedom School

NPO 法人  
さっぽろ自由学校

遊



2022年

前期 講座案内

2022年4月～9月

市民がつくる、市民のための学びの場

## もくじ

01. 出会う英語 ☆英語で語ろう☆	3
02. タシハンボン / もういちど ハングル 「アイヌとカムイのためのレクイエム」上映会 性の多様性を考える アニマルウェルフェア農場見学会	4
03. 人も動物も満たされて生きる —アニマルウェルフェアをめぐる part 6	5
04. ベーシックインカムを再考する —生活保障と脱成長との関連から	6
05. 環境正義を考える —環境被害と人権、そして脱植民地化	7
06. 越境する人と文化を通して読み解く東アジア III	8
07. まず歴史の事実を知ろう II —歴史問題の解決編	9
08. このままでいいの？再生可能エネルギーの進め方 part10	10
09. お隣は外国人「よそ者」から「共生」へ	11
10. 資本主義を問い直す	12
11. 知っておきたい身近な健康被害 —5G のリスク、フッ素使用の実態	13
12. 20世紀を切り開いたアイヌ列伝	14
13. 北海道の"核のゴミ"処分問題を考える part 2	15
14. 「復帰」50年 日本になった沖縄は今	16
15. ウコチャランケ -話し合い- —アイヌとしての思いを伝え、表現する II	17
16. 北海道の問題から地球と共生の未来を考える	18
17. メタバースとSDGs 社会の循環	19
18. 老いと向き合う part 7	20
19. からだのことを知ろう！ 簡単健康講座	21
20. 新聞がなくなる !?	22
21. カムカム英語と戦後英語教育	23
22. 多文化共生、知る伝える関わる「学びの教室」—コリア文化を中心に	24
23. アイヌアートデザイン教室	25
24. 読書室よりみちまわりみち	
25. 花さんの読書ゼミ『生きる場の思想と詩の日々』を読む	26
26. カール・マルクス著『賃労働と資本』を読む	
27. 『人新世の「資本論」』を読む II	27
28. IT勉強会 —「分からない」を「分かる」へ 選んだ人とざっくばらんに！ 民主主義って何だ？ 政治家と語ろう PARC 自由学校 2022 講座のご案内	28



表紙デザイン いのうえしんぢ

### <受講料（参加費）について>

- ・連続講座の受講料は、記述のないものは通しの料金です。「単発」とあるものは1回毎の参加料金となります。
- ・受講料の種別について
  - 会 員：さっぽろ自由学校「遊」の正・準会員の方。  
なお、特別会員の方は**単発参加設定のある連続講座に無料で参加**できます。
  - 一 般：上記以外のすべての方が対象です。  
(25歳以下の若者は、特別料金で参加できます)



## 講座の開催形態とお申込方法

講座の開催形態は、①会場実施のみ、②会場とオンラインの併用、③オンラインのみ、の3種類となっています。以下のロゴマークを参照ください。



会場実施



会場  
オンライン併用



オンライン実施

講座受講のお申込は、以下のいずれかの方法でお願いいたします。

<方法1> 申込はがきに必要な事項ご記入のうえ、投函ください。

<方法2> 右のQRコードより、申込フォームにご記入のうえ、お送りください。

申込フォーム URL : <https://ssl.form-mailer.jp/fms/2339b339737960>  
(さっぽろ自由学校「遊」のウェブサイトからもアクセスできます)



<方法3> 以下のメールアドレス宛に、「講座申込」のタイトルで希望の講座名(単発の場合、日程も)、受講形態(会場/オンライン)、お名前、ご住所、メールアドレスを記入のうえ、お送りください。 [moshikomi@sapporoyu.org](mailto:moshikomi@sapporoyu.org)

## 新型コロナウイルス感染症への対応について

さっぽろ自由学校「遊」では現在、新型コロナウイルス感染症の拡大予防の観点から以下の対策を行っています。

教室で実施するすべての講座につき、定員を設けます(特に記載のない講座については定員15名とさせていただきます)。講座受講をご希望の方は、必ず事前申込をお願いいたします。なお定員になり次第、受付を終了させていただきます。オンライン受講につきましてはこの限りではありません。

対面での参加については、以下の対応についてご了解ください。

- ・マスクの着用を参加の条件とさせていただきます(マスク着用のない場合、入場をお断りします。健康上の理由でマスクが着けられない方は、あらかじめご相談ください)。また、入場のときに手指の消毒をお願いしています。
- ・座席の間隔を空けるとともに、定期的に換気します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況の変化によって、上記の対応等については変更の可能性がありますことあらかじめご了承願います。

## 01. 出会う英語

☆英語で語ろう☆



さっぽろ自由学校「遊」では、開設以来英語の講座を続けてきました。継続は力です。「英語は苦手」と言う人が多いですが、英語を学ぶことによって、世界に一步扉を開けてみませんか? 基本的な文法や言い回しを学び、その時々最新のニュースやトピックスを読んで、自分の考えを表現しましょう。今年は、参加しやすいように、隔週の開催にしました。

また、教室に来ることが不安でオンラインでの受講をご希望の方も歓迎いたします。

日程 5月9日(月)開講  
前期10回(～9/26)  
第二・第四月曜 19:00～20:30

会場 さっぽろ自由学校「遊」  
(愛生館ビル5F 501A)  
\*オンライン受講可

定員 10名(最少催行5名)  
受講料 一般17,000円 会員16,000円  
25歳以下14,000円  
\*体験(1回のみ)1,000円

講師 アンドレス・パトリシアン  
フィリピン出身

皆様へ～メッセージ～

Hi! I'm Patrick and I've been teaching English in Japan for more than 10 years. In this class, we enjoy learning from each other. Social distance may physically keep us apart but with technology, we can still get connected and learn together from a distance. Join this class and enjoy learning English from people around the world!

Patrick



## 02. タシハンボン / もういちど ハングル



人びとの行き来を妨げる感染症、容易には収まらず、街中でハングルをはじめ外国語を耳にすることはめっきり減ってしまった。でも、こんな時こそ、閉じこもらず外に向かって目をこらし耳を澄ましたいものです。そこで、文字は読めるようになったけど…などと、途中でくじけてしまった方たちも「タシハンボン / もういちど ハングル」講座、ご一緒しませんか。

日程 5月12日(木)開講  
前期10回(～9/22)  
第二・第四木曜 19:00～20:20

会場 さっぽろ自由学校「遊」  
(愛生館ビル5F 501A)  
\*オンライン受講可

定員 10名(最少催行5名)  
受講料 一般17,000円 会員16,000円  
25歳以下14,000円  
\*体験(1回のみ)1,000円

講師 コ・ソングョン  
北海道大学大学院 文学院

～講師からのメッセージ～

みなさん、韓国語を聞いたことはあるでしょうね。知っている韓国語はありましたか。お隣の韓国の人々はどのような考え方をしているのか、またどう暮らしているのか。私と一緒に韓国語を学びながら韓国と韓国人の色々な面を覗いてみませんか。楽しく学んでいきましょう!



# 「アイヌとカムイのためのレクイエム」 上映会



日程 4月18日(月) 18:00～20:00  
 会場 愛生館サロン(愛生館ビル6F 南側奥)  
 参加費 500円  
 ゲスト 多原良子 松平亜美 榎木貴美子 斎藤芳子 加賀谷京子 藤野知明(予定)  
 司会進行 丸山博 小泉雅弘

コンセプト: アマレヤシアター & ゲスト 丸山博 アイヌ女性会議メノコモシ  
 演出: カタジナ・パストウシャク ナタリア・ヒリンスカ  
 アイヌ女性の肖像: ペアタ・ソスノフスカ  
 撮影・編集: 藤野知明 ピョトル・ニコフスキ  
 出演: ナタリア・ヒリンスカ 多原良子 松平亜美 加賀谷京子 榎木貴美子 カタジナ・パストウシャク 斎藤芳子 アレクサンドラ・スリヴィンスカ  
 音楽: ナタリア・ヒリンスカ(白歌 現代編曲のポーランドの民謡) 榎木貴美子(楽器 歌) 多原良子(歌)



\*申込は、moshikomi@sapporoyu.org まで

## 性の多様性を考える



2021年3月、札幌地裁は同性婚を認めないのは「違憲」であるとの判断を日本で初めて下しました。この一件は大きく報道され、性的マイノリティ(LGBTQ+)への関心は日本でも日々高まっています。しかし、日本での性的マイノリティへの理解は十分であるとは言えず、当事者ら活動に関わる人々にとっては解決すべき社会的課題が山積しているというのが現状です。性的マイノリティに関する活動に取り組む「さっぽろレインボープライド」の方々が、この現状についてどのように捉えているのかを知るとともに、これからどうしていくべきなのかについて皆さんと共に考えます。

日程 4月18日(月) 18:45～20:45  
 会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)  
 参加費 500円 \*オンライン受講可  
 お話 さっぽろレインボープライド実行委員会の方々  
 企画 佐藤 碧(さとう あおい) 北海道大学法学部3年生  
 嶋田 麻璃絵(しまだ まりえ) 小樽商科大学3年生  
 \*申込は、moshikomi@sapporoyu.org まで



### 「アニマルウェルフェア農場見学会」のお知らせ

昨年に引き続き、アニマルウェルフェアに取り組む農場を訪ね、生産者の話に耳を傾けます。

- 第1回 高橋正明牧場(放牧酪農家。別海町中西別 179-9)  
 6月11日(土) 12時30分から(開始15分前までに現地集合)  
 第2回 小林農園(テンアール株)(平飼い&放牧養鶏家。厚真町厚真 467-1)  
 9月9日(金) 14時から(同上)

\*参加費は各回1,000円(現地で徴収)。問い合わせ&申込:tkoji@rose.ocn.ne.jp 090-9085-9078 滝川まで

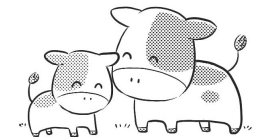
# 03. 人も動物も満たされて生きる

—アニマルウェルフェア(動物福祉)をめぐる part 6



アニマルウェルフェア(動物福祉)の語源は、「(人も動物も)満たされて、生きている」状態。第5期までの講座を受けて、家畜福祉の問題を中心に、実験動物のアニマルウェルフェアや野生動物との共存などについて学ぶ場です。「ケージフリー」を追求する養鶏家や動物保護団体のメンバー、酪農ヘルパー、研究者らが講師になり、普及に向けた課題や人と動物とのより良い関係を創る道筋を探っていきます。

日程 4月28日(木) 開講 全6回 月1回第四木曜 18:45～20:45  
 会場 オンライン開催(zoom使用)  
 参加費 通し 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,500円  
 (単発 一般・会員1,000円/回 25歳以下500円/回)  
 コーディネーター アニマルウェルフェア講座担当チーム



4月28日(木) 第1回

### アニマルウェルフェア養鶏を追求する

●向山一輝(むかいやま いっき)  
 農業生産法人「黒富士農場」専務取締役

いま世界的に採卵鶏のケージ飼育が問題視され、国内でも少しずつ「ケージフリー」の取り組みが進行中です。いち早く「アニマルウェルフェア養鶏」への転換を追求してきた、山梨県の生産者の営みを紹介します。

7月28日(木) 第4回

### ヒグマからの魂のメッセージを聴く

●安藤誠(あんどう まこと)  
 写真家・「日本熊森協会」顧問

「ヒグマは危険な生き物だ」と人が決めつける事こそ危険な行為。野生動物の幸せ=人間の幸せです。野生動物との共存の道や、物事の本質を見抜く力について、自然を介して考えます。

5月26日(木) 第2回

### 「代替肉」「培養肉」と動物福祉を考える

●岡田千尋(おかだ ちひろ)  
 認定NPO法人「アニマルライツセンター」代表理事  
 ●吉川友二(よしかわ ゆうじ)  
 「ありがとう牧場」代表・放牧酪農家(足寄町)

豆などを原料に「代替肉」の商品化が進む一方で、海外では動物の細胞から作る「培養肉」も開発中です。これらの動きがアニマルウェルフェアや生産・消費の現場とどう関わってくるのか、動物保護団体メンバーと酪農家が議論します。

8月25日(木) 第5回

### 動物権利論と動物福祉論 —実験動物を中心に

●黒澤努(くろさわ つとむ)  
 鹿児島大学共同獣医学部客員教授・「動物福祉研究」代表

「動物はとても可愛いので、その権利を侵害しては駄目」という動物権利論があります。その一方、「人が動物を使用するには、動物福祉の精神が必要です」とする動物福祉論があります。実験動物を中心に、この違いを解説します。

9月22日(木) 第6回

### 家畜福祉の名著 『アニマル・マシーン』入門

●滝川康治(たきかわ こうじ)  
 ルポライター(下川町)

1964年、英国のジャーナリスト、ルース・ハリソンが集約畜産の残虐性を告発する『アニマル・マシーン』を出版し、市民の関心を喚起したことが家畜福祉の原点でした。後期講座で読書会を開催するのに先立ち、本書の一端を紹介します。

6月23日(木) 第3回

### 北海道の酪農現場の実態から

●菊地純子(きくち じゅんこ)  
 酪農ヘルパー  
 ●西村紗希(にしむら さき)  
 牧場従業員

多頭化を進め、濃厚飼料をたくさん与えて飼養するなかで、規模拡大のひずみは乳牛たちに向かう……。そうした状況やアニマルウェルフェアの大切さについて、北海道酪農の現場で働く若手の二人が語ります。



## 04. ベーシックインカムを再考する —生活保障と脱成長との関連から



最近、ベーシックインカムは諸外国では、イタリアで2019年4月、スペインでは2020年6月より導入され、世界各国で導入が検討されている。日本国内でもコロナ禍の経済的対策として、2020年に特定給付金として、現金10万円が全国民に給付され、さらに2021年度末時点で第2回目の追加給付が決定されている。また竹中氏の発言に始まった問題を契機として、社会保障問題との関連で再び議論されている。さらに、最近、資本主義下の地球環境の問題から、脱成長コミュニズムのコモンズとしてのベーシックインカムも検討されつつある。本講座では、従来のベーシックインカムの基本的考えを学んだあと、海外での実施状況をも踏まえ、生活保障(=社会保障+雇用問題)との関連、資本主義の未来との関連を踏まえ、日本での導入案を検討する。

**日程** 5月6日(金)開講 全5回 月1回第一金曜 19:00～21:00

**会場** オンライン開催 (zoom 使用)

**参加費** 通し 一般4,000円 会員3,500円 25歳以下2,000円

(単発 一般・会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

**講師** 樋口 浩義 (ひぐちひろよし) <第1回、第2回、第5回>

東京都葛飾区生まれ。岩手県立盛岡短期大学(現岩手県立大学)専任講師、助教授をへて、水戸短期大学准教授、教授(その後退職)。専門は会計学だが、その中で最近10年間は、とりわけ、公会計学に関心を持ち、政府予算管理の立場からベーシックインカム論を研究中。現在、日本ベーシックインカム学会会長。

**山中 鹿次 (やまなかしかつぐ)** <第3回、第4回>

日本ベーシックインカム学会関西地区担当理事、NPO法人近畿地域活性ネットワーク代表。愛知学院大学院博士課程満期退学(文学修士)ベーシックインカムについての論文多数。近日中に、樋口浩義との共著「ベーシックインカムと社会保障(仮題)」を発刊予定。



**5月6日(金) 第1回**

### ベーシックインカムとは何か

ベーシックインカムの従来からある基本的な考え方を学ぶとともに、最近の諸外国での導入状況と国内での議論の状況について検討する。

**6月3日(金) 第2回**

### 我が国でのベーシックインカム導入案

わが国で導入が考えられる導入パターンについて、財源から実現可能性を考察する。併せて、財源は税金によるべきか MMT によるべきかについても検討する。

**7月1日(金) 第3回**

### ベーシックインカムと社会保障

ベーシックインカムの導入の際、障害となってくると考えられる社会保障との関連を考える。

**8月5日(金) 第4回**

### ベーシックインカムの導入と労働問題

ベーシックインカム導入がもたらす労働環境の影響について検討する。

**9月2日(金) 第5回**

### コミュニズムのコモンとしてのベーシックインカムの可能性

齊藤幸平氏が主張している脱成長コミュニズムとの関連からコミュニズムのコモンとしてのベーシックインカムの可能性を検討する。

雑貨(もの)・ひと・食のひろば

**みんたる**  
MINTARU

フェアトレード雑貨&レストラン

札幌市北区北14条西3  
Tel&Fax.011-756-3600  
http://www.mintaru.com

営業時間/11:45-22:00  
定休日/日・月・祝日

## 05. 環境正義を考える —環境被害と人権、そして脱植民地化



SDGs や気候変動問題への注目の中、環境被害が先住民や途上国の人々、国内の周辺地域など社会的弱者・少数者に集中している実態や、その是正への取組みに注目が集まりつつあります。この講座では、「環境正義」という視点から、国内外の諸問題を取り上げたいと思います。

**日程** 5月24日(火)開講 全5回 月1回火曜(第2回のみ月曜) 19:00～21:00

**会場** オンライン開催 (zoom 使用)

**参加費** 通し 一般4,000円 会員3,500円 25歳以下2,000円

(単発 一般・会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

**コーディネーター** 宮内 泰介 (みやうちたいすけ) さっぽろ自由学校「遊」共同代表、北海道大学教員

小泉 雅弘 (こいずみまさひろ) さっぽろ自由学校「遊」事務局長

**5月24日(火) 第1回**

### アメリカ核開発の現場から環境正義を考える

●石山 徳子 (いしやまのりこ)

明治大学政治経済学部教授 専門は人文地理学、地域研究(アメリカ合衆国)

アメリカ合衆国の核開発の現場は、先住民の居留地や生活圏の付近に集中している。そのような不公正は、なぜ、どのように生じるのか。本講義では、現場の歴史地理をたどりながら、環境正義について考えてみたい。

**6月20日(月) 第2回**

### マーシャル諸島 終わらなき核被害を生きる —「核の正義」を求めて

●竹峰 誠一郎 (たけみね せいいちろう)

明星大学教員、主著『マーシャル諸島 終わらなき核被害を生きる』(新泉社)。

米核実験場とされた中部太平洋のマーシャル諸島で、人々はどう生きてきたのでしょうか。核実験被害を掘り下げながら、「小さな島」の問題としてではなく、日本社会の関わりも見つめます。

**7月12日(火) 第3回**

### 福島原発事故避難者の訴訟に見る環境正義・環境不正義

●関 礼子 (せき れいこ)

立教大学社会学部教授(環境社会学)

もし重大な原発事故が発生したら、国・電力会社は被害者をどう扱うのか。福島原発事故避難者の訴訟で展開された、厳粛な法廷での「何かおかしい」を振り返りながら、環境正義とは何か、環境不正義とは何かを考えます。

**8月9日(火) 第4回**

### 沖縄の米軍基地と環境問題 —国際社会で訴えるということ

●吉川 秀樹 (よしかわ ひでき)

Okinawa Environmental Justice Project 代表 専門は文化・応用人類学

沖縄やんばる地域の豊かな自然が米軍新基地建設や軍事訓練により壊されている。破壊を可能にするのは「環境に影響なし」とする日本政府の主張と差別の構造だ。それに対抗する市民の国際社会での取り組みを紹介する。

**9月13日(火) 第5回**

### 人びとはなぜ不法占拠者になったのか —インドネシア・日系企業による強制排除事件から

●笹岡 正俊 (ささおか まさとし)

北海道大学教授

インドネシア・スマトラ島で紙の原料生産を行うある日系企業(植林企業)が引き起こした不法占拠者の強制的排除事件。なぜ人びとは不法占拠者になったのか。環境正義にかなった土地紛争解決とは?



## 06. 越境する人と文化を通して読み解く東アジアⅢ —地域から東アジアの多文化共生を考える



本講座では、昨年度に続いて越境する人と文化を通して東アジアを読み解いていきます。本年度も、該当するローカル地域に焦点を当て、東アジアの多文化共生について考えていきます。具体的には、比較文化の視点から、ローカルとグローバルを結ぶ人と文化（食、音楽、スポーツなど）に着目し、日中韓それぞれ二つの地域を取り上げます。本講座を通じて皆さんには、多文化共生を身近に考え、東アジアの歴史や文化、そして地域を越えて、人と文化に対するより深い理解を得るための一助となることを願っています。



**日程** 4月19日(火) 開講 全6回 月1回第三火曜 18:45～20:45  
**会場** さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) \*オンライン受講可  
**参加費** 通し(会場・オンライン共通) 一般 6,000円 会員 4,800円 25歳以下 2,400円  
 (単発 一般 1,500円/回 会員・オンライン 1,000円/回 25歳以下 500円/回)  
**講師** 朴仁哲(ぼくじんてつ)

中国黒竜江省生まれ、1997年来日。1999年から通訳・翻訳者として日中韓に関わって、草の根の交流を行っています。北海道大学教育学博士。多文化共生・国際交流研究事務所所長、特定非営利活動法人社会理論・動態研究所研究員。専門は外国語教育、東アジア地域研究、人の移動と移民研究、多文化共生・国際交流研究など多数。HP: <https://sapporobc.wixsite.com/officeyou>

### 4月19日(火) 第1回

#### 長野県を事例として

長野県は教育県というイメージがあり、長野県人はよく本を読むと言われていて。文化水準の高い県という風土の中から、多彩な出版文化人を生み出してきました。注目したい点は、長野県が戦前、中国東北地域へ最も多くの移住者を送り出した地域であるということです。第1回では、主に「教育」と「移民」を手掛かりに、東アジアを読み解いていきます。

### 5月17日(火) 第2回

#### 大阪府を事例として

大阪と聞くと、「食いだおれの街」と連想する方が多いのではないのでしょうか。大阪出身の著名人は、司馬遼太郎や与謝野晶子、そして千利休など枚挙にいとまがありません。注目したい点は、大阪が古代より朝鮮半島百濟からの移民、近代では済州島などからの移民が住んでいた地域であるということです。第2回では、主に「食」「文学」「移民」を手掛かりに、東アジアを読み解いていきます。

### 6月21日(火) 第3回

#### 韓国の京畿道(キョンギド)を事例として

京畿道坡州市(パジュ市)は、板門店の軍事境界線(38度線)を隔てて朝鮮民主主義人民共和国と接しています。また、京畿道には南北朝鮮の境界に沿って臨津江(イムジンガン)が流れています。第3回では、主に「境界」を手掛かりに、東アジアを読み解いていきます。

### 7月19日(火) 第4回

#### 韓国の江原道(カンウォンド)を事例として

江原道出身の著名人には、朝鮮半島の二大儒学者の1人である李珣(イ・イ)と母親の申師任堂(シン・サイムダン)があり、それぞれ大韓民国5千ウォン紙幣と5万ウォン紙幣の肖像画として描かれています。また、江原道の道庁所在地春川市は韓流ドラマ「冬のソナタ」のロケ地として知られています。第4回では、主に「儒教」と「韓流」を手掛かりに、東アジアを読み解いていきます。

### 8月16日(火) 第5回

#### 中国の浙江省(セッコウショウ)を事例として

浙江省からは中国国内国外へ多くの人々が移動して行きました。例えば、上海の人口構成の約半分は、浙江省出身者だと言われています。また、日本留学体験があり中国文学の父と言われる魯迅、及び水戸黄門とも交流を持った朱舜水も浙江省出身者です。第5回では、主に「移民」と「文化交流史」を手掛かりに、東アジアを読み解いていきます。

### 9月20日(火) 第6回

#### 中国の陝西省(センセイショウ)を事例として

最終回は主に陝西省の省都西安市に着目します。西安の前身は中国古代の諸王朝の都となった長安です。かつて唐の時代、阿部仲麻呂をはじめとする日本人が遣唐使として長安に赴きました。第6回では、主に「シルクロード」と「文化交流史」を手掛かりに、東アジアを読み解いていきます。

## 07. まず歴史の事実を知ろうⅡ —歴史問題の解決編



日本の未来と平和は、日本のアジア諸国民への過去清算と歴史認識の共有にかかっています。どのようにしたら、日本は歴史問題を解決することが出来るのか。前回の講座では、歴史の事実について学びました。その第2弾として歴史問題の解決編として、解決のための基本事項を探ります。更に、可能であればその後に第3弾として解決の実践編も考えていますがまずはご参加ください。

**日程** 4月25日(月) 開講 全6回 月1回第四月曜 18:45～20:45  
**会場** 愛生館サロン(愛生館ビル6F南側奥) \*オンライン受講可  
**参加費** 通し(会場・オンライン共通) 一般 4,000円 会員 3,000円 25歳以下 2,000円  
 (単発 一般・会員 1,000円/回 25歳以下 500円/回)  
**講師** 小林久公(こばやしひさとも)  
 強制動員真相究明ネットワーク事務局次長。日本軍「慰安婦」問題解決全国行動 資料チーム。戦争させない市民の風・北海道 事務局長。過去と現在を考えるネットワーク北海道 代表。  
**コメンテーター** 林炳澤(いむびよんてく)  
 さっぽろ自由学校「遊」 共同代表。日本の戦後責任を清算するため行動する北海道の会 共同代表。

### 4月25日(月) 第1回

#### 佐渡鉱山の世界遺産登録の解決とは

このままでは佐渡鉱山の世界遺産登録は難しいと思われま。日本政府には、推薦書の再提出の道しか残されていません。

### 5月23日(月) 第2回

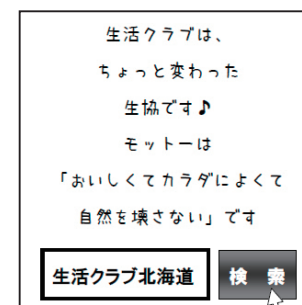
#### 日本軍「慰安婦」問題の解決とは

「慰安婦」問題の解決は容易です。日本政府が解決する意思を持つならすぐにも解決します。

### 6月27日(月) 第3回

#### 個人請求権と国家主権について

日本政府は、国際関係での個人と国家の関係について昔の考えのままです。そこに、韓国の最高裁判決とのずれがあります。



### 7月25日(月) 第4回

#### 戦前の労働者保護法とは

戦前の労働者も無権利状態だったわけではありません。日本の労働者保護法やILO条約について考えます。

### 8月22日(月) 第5回

#### 日本の公文書管理の状況

歴史問題の解決には、国の行政記録、使役企業の内部記録などの公開が必要です。日本の公文書管理と公開は、世界一遅れています。

### 9月26日(月) 第6回

#### 日本の植民地支配は合法か

日本政府は、未だに日本の植民地支配は合法であったと言っています。合法的な植民地など世の中にあるのでしょうか。



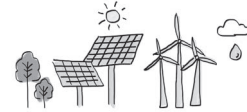


## 08. このままでいいの？

# 再生可能エネルギーの進め方 part10



昨年7月全国再エネ問題連絡会が結成され、今年春には（仮称）風力発電全国連絡会が立ち上がります。地球温暖化防止のための脱炭素社会に向けた経済界中心の政策の影で、再エネ事業による深刻な問題を抱えた多くの団体が、都会に電気を送るために、豊かな自然や生活を壊さないで、地方を犠牲にしないでと訴えています。



日程 4月26日（火）開講 全6回 月1回火曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）＊オンライン受講可

参加費 通し（会場・オンライン共通）一般6,000円 会員4,800円 25歳以下2,400円  
（単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回）

コーディネーター 糟谷 奈保子（かすや なおこ） 石狩湾岸の風力発電を考える石狩市民の会

### 4月26日（火）第1回

#### 秋田県の洋上風力発電開発の課題について

●山下 友宏（やました ともひろ）

山下友宏出版代表、風力発電の実情取材中。

国策である脱炭素社会の切り札として注目される秋田県内の巨大洋上風力発電事業の実態を調査中。巨大開発計画を住民目線からも取材し、その課題を浮き彫りにする。

### 5月31日（火）第2回

#### 風力発電は鳥類にどのような影響を与えるのか

●浦 達也（うら たつや）

（公財）日本野鳥の会・主任研究員（札幌出身）

環境に優しいとされる再エネのうち、風力発電の導入が日本でも進んでいます。しかし、風力発電の建設も開発行為である以上、立地選定を誤ると自然環境は影響を受け、中でも鳥類は最も影響を受けやすい自然環境です。影響の回避・低減策、アセスの問題点について考えていきます。

### 6月28日（火）第3回

#### 脱炭素社会に向けた再エネ推進政策がもたらしている環境破壊の解決に向けて

●山口 雅之（やまぐち まさゆき）

全国再エネ問題連絡会共同代表

静岡県函南町をはじめ全国で問題となっているメガソーラーや風力発電の実態や悪質事業についてお聞きします。法律を変えるしか対策はないと国や国会議員に法の不備を訴え続けています。

### 7月26日（火）第4回

#### “気候正義”は人類を崩壊させかねない —資源争奪・戦争・新興ウイルス

●西原 智昭（にしはら ともあき）

星槎大学共生科学部特任教授 国際保全NGO

WCS(Wildlife Conservation Society)自然環境保全研究員。

仮に気候危機を迎えているにしても、現行の脱炭素政策は人類の崩壊をも招きかねない。大切なことは、何か新規のものを手掛けることではなくまずは現状の自然界を保全すること。

### 8月23日（火）第5回

#### 開発がもたらす野生動物への影響

●水見 竜哉（みづみ たつや）

一般財団法人日本熊森協会 主任研究員

豊かな自然が残る東北や北海道の森に大規模なメガソーラーや風力発電の開発が次々計画されています。地域の人でもなかなか見えにくい開発の実態や、森林、野生動物、地域の人々の生活に与える影響について考えます。

### 9月27日（火）第6回

#### 再エネ推進の号令下で進められる 規制緩和と法改正

●佐々木 邦夫（ささき くにお）

風力発電の真実を知る会

国立公園内での開発、農地や保安林等の規制緩和などどのように法改正されたのか。これまでの審議会などの検討に比べ、短期間に結果を求める傾向があるが、規制や手続きは、丁寧な検討をすべきです。

## 09. お隣は外国人 「よそ者」から「共生」へ



北海道にも「技能実習生」がいることは知っているがなかなか会う機会もなければ話す機会もないと思っている人が多いのではないだろうか。しかし、実際は意外に身近にいるのに気が付いていないだけかもしれない。『お隣は外国人』の執筆者と共に私たちが生活している北海道に住み、働いている人々の存在を知り、彼らを「よそ者」ではなく、「共生」の対象者としてあなたの隣人を知る機会にして欲しい。

日程 5月2日（月）開講 全5回 月1回第一月曜 18:45～20:45

会場 愛生館サロン（愛生館ビル6F 南側奥）＊オンライン受講可

参加費 通し（会場・オンライン共通）一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円  
（単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回）

コーディネーター 西千津（にしちづ） カトリック札幌司教区難民移住移動者委員会

### 5月2日（月）第1回

#### 『お隣は外国人』出版までの道のり —始まりは北海道のベトナム人調査から

●湯山 英子（ゆやま えいこ）

北海道学術大学非常勤講師／同大学開発研究所客員研究員

ベトナムのフォーを知らない人はいない。でも、フォーの国からやって来た若者たちが北海道のどこで働き、どんな暮らしをしているのか知らなかった。そこで、調査を始め、今回の本出版に至ったストーリーを解説。

### 6月6日（月）第2回

#### 外国人介護福祉士を養成して —日本語能力を備えた働き手

●澤田 乃基（さわだ さきもと）

北海道福祉教育専門学校 学校長

学年度で2期に渡り、「外国人介護福祉士」を養成している。コロナ禍の影響で中断した留学生の新規入国が、再開し3期目の養成が始まっている。これまでを振り返り、介護の現場に必要な「外国人」について検討する。

### 7月4日（月）第3回

#### 函館のカトリック教会に技能実習生と集う

●信田 和奏（のぶた わかな）

北海道教育大学 函館校 国際地域学科 卒業生

●森谷 康文（もりたに やすふみ）

北海道教育大学 函館校 国際地域学科 准教授

函館のカトリック教会に集う実習生の聞き取りから見てきた日本での生活のあり方や地域社会とのかかわりについて報告し、技能実習制度の問題点を検証するとともに実習生が地域社会とつながるための課題について考える。

### 8月1日（月）第4回

#### 包丁を持ったベトナム人技能実習生

●山本 咲耶（やまもと さくや）

元帯広三条高校放送局長

●安藤 佳寿哉（あんどう かずや）

帯広三条高校放送局顧問

帯広市で起きたベトナム人技能実習生傷害事件報道。実習生は危険だから近づくなと市教育委員会は通達を出した。しかし、その傷害事件は誤報だった。これをきっかけに帯広三条高校放送局は取材を始めた。

### 9月5日（月）第5回

#### 私が出会った北海道のベトナム人 —かれらの現在と未来

●設楽 澄子（したら すみこ）

北海道学術大学非常勤講師・ベトナム語通訳者

これまでたくさんのベトナム人の若者に出会ってきた。今も日本で働く人もいれば帰国した人もいる。人懐っこいかれらとの交流の一端を紹介し、かれらの未来をどのように支えられるか一緒に考えたい。



## 10. 資本主義を問い直す



2021年に就任した岸田首相は「新しい資本主義」を掲げました。その内容はさておき、新自由主義的な政策を押し進めてきた日本政府ですらも、現在の資本主義体制の先行きに懸念を抱いているようです。実際、気候変動などの地球環境問題の深刻化や異常な経済格差の拡大などが露わになるとともに、自明の前提とされてきた資本主義そのものを問い直すという声が世界各地であがっています。そもそも資本主義とはどのような仕組みなのか。現在の資本主義の特徴と問題などを改めて学び合い、矛盾だらけの資本主義を変えていくにはどうしたらよいかを考えたいと思います。

日程 5月9日(月) 開講 全5回 月1回 第二月曜 18:45～20:45

会場 愛生館サロン(愛生館ビル6F 南側奥) \*オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円

(単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 大屋 定晴(おおよさだはる) 北海学園大学 経済学部教員

小泉 雅弘(こいずみまさひろ) さっぽろ自由学校「遊」事務局長

### 5月9日(月) 第1回

#### 資本主義とはどんなものか

●宮田 和保(みやた かずやす)  
北海道教育大学名誉教授

現代の金融・社会政策などを取り上げて、現代の、とくに日本の資本主義の特徴について話します。

### 6月13日(月) 第2回

#### 株式会社と金融からみる現代 —未来社会への展望と資本主義

●神山 義治(かみやま よしはる)  
北海学園大学 経済学部教授

資本主義はグローバルな市場経済であり、そこでは企業と貨幣の運動が巨大な力として作用しています。資本主義を株式会社と金融の発達からとらえることによって、地球と人間の未来を考えてみたいと思います。

### 7月11日(月) 第3回

#### 現在の資本主義とその問題

##### —環境、ジェンダー、格差について

●浅川 雅巳(あさかわ まさみ)  
札幌学院大学 経済経営学部教授

人々の社会的つながりの構築と維持、自然生態系の保全、各人の尊厳ある実存を、資本主義が、現在、いかにして破壊しつつあるのか、抵抗や超克の展望はあるのか、こういったことを皆さんと考えていきたいと思います。

### 8月8日(月) 第4回

#### グローバリゼーションと対抗運動

●大屋 定晴(おおよさだはる)  
北海学園大学 経済学部教員

国家の新自由主義化に並行するグローバリゼーションは、資本の活動の世界的拡大をもたらしました。他方、これに対抗する社会運動も各地で現れています。この事態を検討する中で、資本主義の問題性と克服の展望を探ります。

### 9月12日(月) 第5回

#### 新しい連帯経済のかたち

●平野 研(ひらの けん)  
北海学園大学・発展途上国論担当

1950年代から始まる国際的「連帯」は、ポスト新自由主義の現在、「連帯経済(Social Economy)」として新たな性質を示しています。今回はSDGsやフェアトレードなどを新たな「連帯」の可能性として考えていきます。



## 11. 知っておきたい身近な健康被害

### —5Gのリスク、フッ素使用の実態



利便性ばかりが報道される5Gだが、電磁波による健康・環境影響が明らかになりつつあり、5Gの規制を目指す動きが出てきた。その一方で、スマートシティのインフラとしての整備も進んでいる。多数のIoT(Internet of Things)機器を通じて情報を収集するスマートシティはサイバー攻撃に脆弱になり、安全保障上のリスクがあると指摘されている。厚生労働省はそれまで1000ppmがフッ素濃度の上限だったが、2017年3月に、1500ppmを上限とする高濃度フッ化物配合薬用歯磨き剤を承認した。「6歳未満の子供には使用を控える」、「6歳未満の子供の手の届かない所に保管する」など表示されている。日本弁護士会はフッ化物洗口・塗布について利用中止を求める意見書を国に提出している。一般報道ではなかなか知ることが出来ない実態を学びます。

日程 5月10日(火) 開講 全5回 月1回 火曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) \*オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円

(単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 糟谷 奈保子(かすや なおこ) さっぽろ自由学校「遊」会員

### 5月10日(火) 第1回

#### 5Gをめぐる各国の状況

●加藤 やすこ(かとう やすこ)  
環境ジャーナリスト、いのち環境ネットワーク代表

5G電磁波が健康や環境へ悪影響を与えるという研究結果が増え、EUでは規制を目指す動きも出ている。とくに懸念されているのが花粉媒介者への影響だ。各国の規制や対策について紹介する。

### 6月7日(火) 第2回

#### 虫歯予防フッ素の効果は疑問

●秋庭 賢司(あきにわ けんじ)  
日本フッ素研究会事務局、日本口腔衛生学会永年会員台湾、内モンゴ、貴州、雲南等でフッ素中毒地区の調査を行う。

フッ素洗口は、水道水フッ素化の次善の策として、地域集団ケアに位置付けられている。しかし、フッ素洗口の質の高い論文はなく、効果は殆どない。

### 7月5日(火) 第3回

#### スマートシティと電波の道

●加藤 やすこ(かとう やすこ)

スマートシティのインフラとして使われる5G。スマートシティ化を目指す東京では「電波の道」を作る計画も進行するが、5G導入エリアの測定値は高い。政府が目指すスマートシティと各自治体の計画案を紹介。

### 8月2日(火) 第4回

#### サイバー犯罪と個人情報の保護

●加藤 やすこ(かとう やすこ)

宇宙空間や空にも通信網は広がりつつあるが、小型通信衛星やIoT機器の増加はサイバー攻撃の増加につながる可能性がある。スマートシティがサイバー攻撃を受けるリスクをNATOも警告している。

### 9月6日(火) 第5回

#### フッ素の毒性

●秋庭 賢司(あきにわ けんじ)

フッ素の結合力はあらゆる物質中最大であり、急性毒性及び酵素阻害を本質とする慢性毒性は、歯フッ素症など全身に及ぶ。フッ素の総摂取量は、少なければ少ないほどよい。





## 12. 20世紀を切り開いたアイヌ列伝



「和人」という自称さえ必要としない圧倒的多数者社会の善意と無理解に包囲されながら、アイヌ民族独自の近代化の模索は各地で進められました。時代の境界との葛藤を生き抜いた先駆者たちの「遺産」は、子や孫の世代へ確実に受け継がれています。21世紀の新たな視点から読み直して共有しましょう。

日程 5月11日(水) 開講 全5回 月1回第二水曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) \*オンライン受講も可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円  
(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 長岡 伸一(ながおか しんいち) 元NHK札幌放送局 番組制作ディレクター

1987夏、初めて札幌に赴任し、テレビ番組「復活!アイヌ民族のサケ漁」を作った。1989夏、世界先住民族会議(北海道)に参加。1991秋、ピースポート北方四島ツアーに乗船。『アイヌ民族否定論に抗する』(河出書房新社、2015刊)に「宗主国の帝都を歩く」を寄稿。2021年、遊の講座「明治のサッポロのアイヌ史を掘る」を企画。2022年、講座「核のゴミ」7月の講師予定。

5月11日(水) 第1回

### バチェラー八重子が拓いた道

●石原 真衣(いしはら まい)  
北海道大学准教授 \*オンライン登壇



アイヌとして苦しみや傷と共に生き、そしてアイヌであるからこそ得た文化資本によって、同時代とその後のアイヌが生きる道を切り拓いたバチェラー八重子(やえこ)について、アイヌの出自を持つ立場から発表する。

6月8日(水) 第2回

### 遠星北斗の東京を読む

●山科 清春(やましな きよはる)  
遠星北斗研究会代表

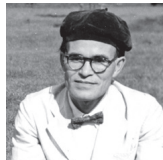


アイヌの歌人・遠星北斗(いほしほくと)の27年の生涯の中で、大きな転機となった東京での生活。その一年半(大正14～15年)は彼にとってどのような意味を持ったのか。東京時代の彼のノートから読み解きます。

7月13日(水) 第3回

### 知里真志保(1909~1961)における「起源」の問題

●マーク・ウィンチェスター  
国立アイヌ民族博物館アソシエイトフェロー



蝦夷地の「内国化」から40年経って生まれた知里真志保は、新しい日本国の近代学問を担う第3世代の学者の一人となった。大日本帝国の近代性と進歩の物語が正当性を失った戦後になると、知里はアイヌ文化史研究の「起源的考察」を発表し始める。その「なぜ」に迫る。

8月10日(水) 第4回

### 佐々木昌雄(1943~)

—<アイヌ>でないもののように

●マーク・ウィンチェスター  
国立アイヌ民族博物館アソシエイトフェロー

『アヌタリアイヌ われら人間』の初代編集責任者として知られる佐々木昌雄は、特異な思想からなる一連の仕事の後世に残した。人々が指して言う<アイヌ>でないものようにいられる場とは何か。彼の全著作に通底するこの課題は、私たちに何を可能にしてくれるのか。その現代的意味を考える。

9月14日(水) 第5回

### 貝沢正とレイシズム

●新井 かおり(あらい かおり)  
北海道大学アイヌ・先住民研究センター 博士研究員



貝沢正(1912-1992)の生きた時代の、アイヌに対するレイシズムはいかに発露し、貝沢がそれに抗い、何を社会に残してきたかを、貝沢正の原資料から考える。



## 13. 北海道の“核のゴミ” 処分問題を考える part 2



後志管内の寿都町と神恵内村で“核のゴミ”最終処分場の選定に向けた「文献調査」が進み、寿都では今秋以降、町条例に基づく住民投票が実施されます。道北の幌延町では、当初計画の研究期間がなし崩し的に延長され、深度500mの調査坑道を掘削する計画が進行中です。

こうした“核のゴミ”処分問題の「過去・現在・未来」を、地元住民や研究者らの話を通して深掘りしていくのがこの講座の目的です。

日程 5月18日(水) 開講 全5回 月1回第三水曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) \*オンライン受講も可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円  
(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 滝川 康治(たきかわ こうじ) ルポライター

5月18日(水) 第1回

### 「文献調査」に抗して～寿都町から

●越前谷 由樹(えちぜんや よしき)  
前寿都町議・元寿都町助役

一昨秋、寿都町の片岡春雄町長が「文献調査」の応募に手を挙げ、地域に分断が持ち込まれました。町の職員や議員を務め、昨秋の町長選に出馬した経験も踏まえ、「核に頼らない町づくり」について共に考えます。

6月15日(水) 第2回

### 「処分研究」が進む幌延の隣町から

●久世 薫詞(くせ じゅんご)  
「自給のむら」,「核廃棄物施設の誘致に反対する道北連絡協議会」代表

●田中 真生(たなか さね)  
酪農家(豊富町在住)

旧動燃の「貯蔵工学センター計画」が撤回され、生き残ったのが幌延町の最終処分に向けた研究施設。隣の豊富町で暮らす住民たちによる、酪農郷の里に“核のゴミ”関連施設の押しつけを許さない活動などについて紹介します。

7月20日(水) 第3回

### 村をあげて原発誘致したけれど… —浜益の教訓を次世代へ

●長岡 伸一(ながおか しんいち)  
元NHK札幌放送局 番組制作ディレクター

「北海道初の原発は、わが町に来てほしい」と全道各地で願った時代がありました。そして今、札幌圏の住民は、「核のゴミ」問題を遠い過疎地の他人事とっていませんか? 33年前の旧浜益(はまます)村での取材経験を元に問題提起します。

8月17日(水) 第4回

### 「最終処分法」の問題点を探る

●滝川 康治(たきかわ こうじ)  
ルポライター(下川町在住)

22年前、衆参合わせて7日の委員会審議だけで成立した「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」。処分場の立地基準や「文献調査」の位置づけなどが曖昧な同法について、これまでの経緯を検証しながら、問題点を探ります。

9月21日(水) 第5回

### 高レベル放射性廃棄物と受益圏・受苦圏

●中澤 高師(なかざわ たかし) \*オンライン登壇  
東洋大学社会学部准教授(環境社会学・政治学)

高レベル放射性廃棄物処分における「不公正」について、環境社会学の受益圏・受苦圏論という枠組みを用いて捉え、解決の方向性を考えていきます。





## 14. 「復帰」50年日本になった沖縄は今 —犠牲の構図を超え、共に生きる道を探る



日本の近代化とともに「琉球王国」という独立した地位を奪われ、日本帝国の版図に組み入れられた沖縄。第2次世界大戦末期には、「本土決戦」を遅らせ敗戦交渉の時間稼ぎのために戦場とされ、多くの住民が犠牲となった。その後も、米軍による占領、日本の独立にあたり、沖縄の米軍支配が「合法化」された。そのなかで人権保障を求めて、「日本に復帰」し、今年50年の節目を迎える。しかし、復帰前から沖縄に強いられてきた、過剰な軍事基地負担という犠牲の構造は変わらない。日本と沖縄の関係を、薩摩による琉球侵略からあらためて学び直すことで、沖縄の「祖国復帰」の意味を確認し、沖縄の自決権や基地問題に日本人としてどう向き合うべきかを考える。(第2回目以降の講師はオンライン登壇となります)

日程 5月20日(金) 開講 全5回 月1回第3金曜 18:45 ~ 20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) \*オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円  
(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 飯島 秀明(いひま ひであき) 沖縄の基地を考える会・札幌  
渡名喜 隆子(とんなち たかこ) 沖縄の基地を考える会・札幌

5月20日(金) 第1回 \*来札予定

侵略・併合 差別と同化の始まり

●金城 馨(かなぐすく きんじょう かおる)

関西沖縄文庫主宰・沖縄に基地を押し付けられない市民の会

薩摩による琉球王国の侵略・収奪。明治に至り、王国は「琉球処分」の名で日本に併合された。そこから強いられた差別と同化の歴史を人類館(事件)などを通じて考える。



6月17日(金) 第2回

沖縄戦を考える

●下地 輝明(しもじ てらあき)

沖縄平和ネットワーク会員

本土のための「捨て石」とされ、県民の4人に1人が亡くなった沖縄。第32軍は沖縄をどう見ていたのか、戦後、天皇は沖縄をどう扱ったのか。戦争と軍隊を県民の目で考える。



7月15日(金) 第3回

米軍統治下の沖縄

●長元 朝浩(ながもと ともしろ)

沖縄タイムズ元編集局長

冷戦真っただ中のその時期、沖縄で何が起っていたのか。住民は冷戦の最前線で過酷な現実はどう向き合ってきたのか。韓国・台湾・沖縄と日本本土の関係はどうだったのか。沖縄の施政権返還はこの関係にどのような変化をもたらしたのか。沖縄の何が変わり、何が変わらないままなのか。沖縄が抱える問題の根本的な解決を妨げているものは何なのか。



8月19日(金) 第4回

日本にさせられた沖縄からの声  
—琉球独立論

●友知 政樹(ともち まさき)

沖縄国際大教授 琉球民族独立総合研究会共同代表

琉球(沖縄)は今もなお日本の植民地である。琉球独立運動は脱植民地化運動であり、琉球人の琉球人による琉球人のための運動である。対して日本は、琉球(沖縄)を速やかに解放すべきであり、植民地主義と決別することは日本自身のためにもなる。



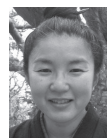
9月16日(金) 第5回

沖縄からの声：基地引き取り運動

●知念 ウン(ちねん うし)

沖縄国際大非常勤講師、むぬかチャー(=ライター)

沖縄への米軍基地の集中。それは日本人による差別、植民地主義の現れではないのか。「日本人よ、沖縄の基地を引き取りなさい！」という訴えに耳を傾け、考える。



## 15. ウコチャランケ - 話し合い - —アイヌとしての思いを伝え、表現する II



アイヌ民族の多様な声を伝えたいと2020年から始まった北海道新聞の連載「ウコチャランケ」。「遊」では2021年度後期に続き、同欄に登場した方々を講師として招き、紙面で伝えたかったことや、言い尽くせなかったことを語っていただきます。受講者の皆さんと話し合いながら、思いを共有できるよう理解を深めていきたいと思ひます。

日程 5月27日(金) 開講 全5回 月1回金曜(第4回のみ水曜) 19:00 ~ 21:00

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) \*オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円  
(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 中村 康利(なかむら やすとし) 北海道新聞文化部編集委員、同紙「ウコチャランケ」欄担当

\*連載「ウコチャランケ」は、優れた報道を表彰するメディア・アンビシャスの2021年優秀賞を受賞しました。

5月27日(金) 第1回

宇梶 静江さん

自然とともに生き、平和をつくる

浦河町生まれ。アイヌ民族の伝統刺しゅう技法を用いてカムイユカラ(神謡)を表現する古布絵作家。2011年に吉川英治文化賞、2020年に後藤新平賞を受賞した。近著に「大地よ！」(藤原書店)。俳優の宇梶剛士さんは長男。白老町在住。

8月31日(水) 第4回

豊川 純子さん

「私はアイヌ」という気持ち

帯広市生まれ、在住。会社員を経て、帯広市内にある屋台村「北の屋台」内にある「Asian・アイヌ居酒屋ボンチセ」店主。

6月24日(金) 第2回

葛野 次雄さん

北海道は誰のもの？

新ひだか町静内東別(とうべつ)生まれ・在住。日高管内のアイヌ民族ら有志でつくる「コタン」の会 副代表、葛野辰次郎のアイヌ精神文化を学ぶ会会長。68歳。

9月30日(金) 第5回

ウコチャランケ—話し合い—

連載「ウコチャランケ」に登場された方々にも参加いただき、これまでの講座でのお話も踏まえつつ、参加者とともに話し合います。





## 16. 北海道の問題から地球と共生の未来を考える



北海道では、今また開拓時のようなスピードで、様々な環境破壊行為が行われています。個々の原因は違っても、同様の状況は地球上の各地で生じています。黙って見ていて良いはずはありません。これからの私たちの未来は、地球を基準に考え行動すること、地球にとって良いと考えられる方を選択し続けることで、変えていけるのではないのでしょうか？ そのためにも、私たちが住む北海道の現状を知り、地球と共生する方法と一緒に考えてみませんか？ 今までと違う発想、価値観を学び、身につけることで問題が解決できるようになるのではないかと、思います。北海道に住む私たちから始めてみませんか？

日程 5月14日(土) 全5回 月1回土曜 14:00～16:00

会場 愛生館サロン(愛生館ビル6F・南側奥)

参加費 通し 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円

(単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 田村リエ子(たむらりえこ) さっぽろ自由学校「遊」会員



### 5月14日(土) 第1回

#### アイヌの起源と人権

##### —アフリカ最古の先住民とともに考える

●西原 智昭(にしはら ともあき)

星槎大共生科学部特任教授

●多原 良子(たはら りょうこ)

一般社団法人メノコモシモン代表

森林環境に住みその森林における産物に依拠してきた先住民であり王国のような包括的統治形態もなかった一方、国家による民族の分断や差別・人権侵害の歴史をたどってきたアイヌを、共通の歴史や特質を持つアフリカ先住民の視点とともに考える。

### 6月11日(土) 第2回

#### 北海道が再エネに覆われる日

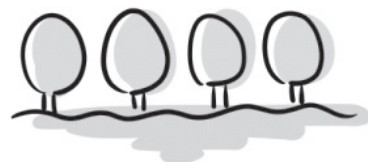
##### —アフリカの大地との類似性

●西原 智昭(にしはら ともあき)

●佐々木 邦夫(ささき くにお)

風力発電の真実を知る会 代表

現行の再エネ政策では北海道の山も海も再エネで覆われかねない。それは地球温暖化対策が自然環境を劣化させる温床の典型事例ともなり得る。アフリカの生物多様性豊かな熱帯森林の経験から自然豊かな北海道に及ぶエネルギー政策を問う。



### 7月9日(土) 第3回

#### 交通—JR廃線問題、新幹線トンネル汚染残土問題など

●地脇 聖孝(ちわき まさたか) 安全問題研究会

JR廃線の危機が続く北海道。在来線鉄道は時代の役割を終えたのではなく、これからの時代にふさわしい活かし方があります。農業、環境などの視点から、新しい鉄道の活かし方を考えます。

### 8月6日(土) 第4回

#### 野生生物・自然との共生

##### —人間による「開発」との関係

●金子 正美(かねこ まさみ)

酪農学園大学環境共生学類教授、RCE北海道道央圏協議会代表、NPO法人北海道市民環境ネットワーク理事長

北海道は、日本で最も自然の豊かな地域ですが、一方で、最も急速に自然を失った地域でもあります。この講座では、100年前の地形図の地図情報を元に、過去の森林や湿原を復元し、自然の変遷と、それによる野生動植物の変化についてお話しします。

### 9月10日(土) 第5回

#### 諸課題の根元に何を見るか

##### —聖書を手がかりとして

●稲生 義裕(いのう よしひろ)

日本キリスト教会 札幌豊平教会牧師

欲望を発展のエネルギーとする経済社会はおびただしい悲惨を生み出して行き先を失い、共同社会の崩壊と孤立を深める人間は、突き進むネット社会の奴隷と化し、人の尊厳や自由はどこに？ 絡み合う諸課題の根元を探る作業を、聖書を手がかりとして御一緒に。

## 17. メタバースとSDGs 社会の循環



昔、テレビの映像の中に入りたいと思ったことはありませんでしたか。人々がバーチャル空間で交流する「メタバース」が注目されています。VR空間で現実の街を再現し利用するミラーワールドも、渋谷、新宿、池袋などで次々に誕生しました。一方、SDGs社会を目指す活動も活発になっています。持続可能な社会を実現するために、メタバースは予測や実験の場として役立ちます。メタバースで経済活動を行うことで現実社会でのエネルギー消費を減らすこともできます。情報処理の増大で課題となっている伝達速度やエネルギー消費問題は、光を通信だけでなく情報処理に利用することで、高速化と省エネ化が劇的に進みます。メタバースとSDGs社会は、相互に情報を伝え循環しながら進めていくことができます。講座ではメタバースの歴史を振り返り、メタバースとSDGs社会の関係を、さまざまな事例を通じて解説します。機器を使い、多彩なメタバースを実際に体験します。

日程 5月14日(土) 開講 全5回 月1回土曜 14:30～17:30

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 通し 一般8,000円 会員6,000円 25歳以下4,000円

(単発 一般2,000円/回 会員1,500円/回 25歳以下1,000円/回)

講師 俵屋 年彦(たわらやとしひこ)

1997年に遊の最初のホームページを作成。1998年開局以来、FM三角山放送局のパーソナリティをしています。15年前からVRサービスの老舗セカンドライフのプレミアム会員です。2014年からは、没入型VRについてのさまざまな講座や体験会を続けています。VR空間は、さまざまな人たちの出会いと交流の場です。



### 5月14日(土) 第1回

#### 早過ぎたセカンドライフの先駆性

15年前話題になったVR空間セカンドライフが再び関心を集めています。若い人たちは、その先駆的なサービスに驚き、熱心に学んでいます。セカンドライフの歴史は、今後のメタバース社会にとって貴重な教訓となります。

### 6月11日(土) 第2回

#### クラスターという日本からの挑戦

インターネットサービスは、海外に依存することが多いですが、クラスターは日本のベンチャー会社です。1000人以上が同時に参加できるため、コロナ禍で急速に進んだバーチャルイベント開催の場として活躍しています。

### 7月9日(土) 第3回

#### 札幌発バーチャルキャストの未来

オンライン教育の課題に、集中力の持続や生徒同士の対話・交流があります。N高・S高では、VRを使ってこの課題解決を目指しています。その仕組みを担っているのが、VRサービスの札幌の会社・バーチャルキャストです。

### 8月6日(土) 第4回

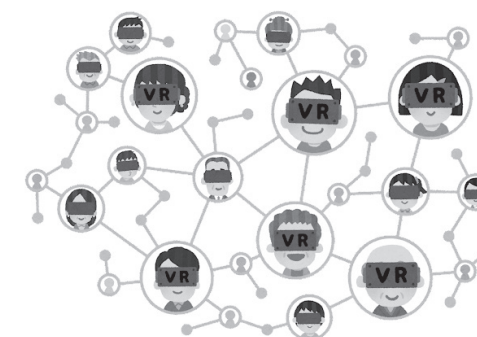
#### 多彩なメタバースの誕生と可能性

日本人が多く参加しているVRチャット、実験的取り組みが活発なNeosVRのほか、さまざまなメタバースが誕生しています。また、既存のサービスに参加するだけでなく、ユーザーが独自の世界を作り出す動きも活発です。

### 9月10日(土) 第5回

#### メタバースからインターバースへ

繋がり支え合いながら分散する豊かな社会へ。主導権争いをするのではなく、ブロックチェーンで多彩なメタバースが連携する動きが加速中です。札幌圏でも、Web3、分散社会を促進する取り組みが、目立ち始めています。



## 18. 老いと向き合う part 7



日本はいま、「超高齢社会」をむかえています。認知症やがんなどの病、介護をめぐるトラブル、孤独死など、年をとることにより様々な問題が目の前にたちはだかります。そこで、関係団体、施設の方々とも交流し、参加者で語り合います。ぜひ一度のぞいてみてください。なお、単発受講者も必ず事前予約をお願いします。

日程 5月6日(金)開講 全5回 月1回第一金曜 14:00～16:00

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 通し2,500円(単発600円/回)

コーディネーター 伊藤 恒雄(いとう つねお)

さっぽろ自由学校「遊」会員。公益社団法人日本技術士会会員。40年以上建設コンサルタントに勤務。

全国各地の農業農村整備事業、主に調査・計画業務に従事。

細谷 洋子(ほそや ようこ) さっぽろ自由学校「遊」理事

### 5月6日(金) 第1回

#### 施設・終の住処を考える —食物アレルギーがある人の場合—

●森脇 栄一(もりわき えいいち)  
さっぽろ自由学校「遊」会員

サ高住をたくさん見学しましたが、キッチンがあっても3食自炊は認められておらず、提供される食事は食べられない物だらけ。なんらかの制限がある人の場合の施設や暮らし方について、情報と知恵を出し合って語り合いたいと思います。

### 6月3日(金) 第2回

#### 口腔筋機能を高めよう!

●石丸 美鈴(いしまる みすず)  
ツリーオブライフ 看護師

最近、「飲み込みが悪い、むせる、滑舌が悪い」等と感じることはありませんか。年齢とともに口の周りの筋肉が衰え、ほっておくと誤嚥性肺炎を引き起こす誘因にもなります。一緒に気軽にできるお口の体操にチャレンジしてみませんか。参加者は「歯ブラシ・手鏡」を持参してください。

### 7月1日(金) 第3回

#### 介護保険ってどうやったら使えるの?

●後藤 洋美(ごとう ひろみ)  
札幌市中央区第1地域包括支援センター職員

介護保険の申請、介護認定の受け方、そもそもどこに相談に行けばいいのか、どのくらいの状態なら受けられるのか、介護保険についてはわからないことだらけ。具体的なケースを交えてお話しいたします。



### 8月5日(金) 第4回

#### 札幌市社会福祉総合センター見学 —福祉用具展示ホールを重点的に—

●集合場所 札幌市中央区大通西19丁目1-1  
札幌市社会福祉総合センター 1F アトリウム  
(地下鉄東西線 西18丁目下車・出口1番 徒歩2分)  
TEL 011-614-3345

●集合時間 13:50

社会福祉協議会ってどんなことをしているの? 総務課職員に業務内容の説明をしてもらい、社会福祉総合センターを見学します。イチオシはここまで進化した電動ベッド、あると便利な入浴グッズほか福祉用具展示ホールです。なお諸事情により見学ができなくなった場合は、教室開催となります。変更の連絡の可能性もありますので、参加予定の方は必ず事前予約をお願いします。

### 9月2日(金) 第5回

#### 死を意識してからの別れのあり方

●若月 美緒子(わかつき みおこ)  
東区在住 60代

両親を見送って「死」も「葬儀」も、私の中で意味が変わりました。そんな経験をみなさんと交流して「自分はどうか死に、見送られたいか」を考えたいと思います。

## 19. からだのことを知ろう! 簡単健康講座



日々の暮らしのなかで「からだ」の健康はとても大切なことは皆さんご存知かと思います。では、自分の「からだ」についてどの程度理解していますか? この講座では、筋肉、リンパ、ツボ、薬膳など、様々な視点から学んでいきます。また、日々の健康管理に役立つ簡単な内容ですので直ぐに実践ができます。「からだ」について知識を深め、日々の健康管理に活かしましょう。

日程 5月19日(木)開講 全5回 月1回木曜 18:00～19:00

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

受講料 一般5,000円 会員4,000円(単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回)

講師 堀口 恭弘(ほりぐち ともひろ)

整骨 鍼灸 漢方 薬膳 福院長。栃木県出身。大樹町にて地域医療を学ぶなか、西洋医学の欠点に気づき東洋医学を学ぶため来札、進学する。中醫師のもと中医学を学び、西洋・東洋医学を折衷した統合医療の実践や地域住民向けの講座・セラピスト向けの勉強会を毎月開催している。



### 5月19日(木) 第1回

#### 楽しく学ぼう首のつぼ♪

頭痛、スマホ首、肩凝り、ストレートネック…現代病ともいえるこれらの症状に悩み来院される方が多いです。首の解剖学に基づいた首のセルフケアをお教えます。

### 6月16日(木) 第2回

#### リンパを学ぼう♪

風邪で「リンパが腫れる」、病気で「リンパを切除した」など、耳にすることがある「リンパ」について、その役割やセルフでできるリンパマッサージのやり方をお教えます。

### 7月21日(木) 第3回

#### 腰・背中のつぼ

腰痛持ちの方は多く、ある筋肉が固い方がほとんどです。腰痛だと思っていたのに実は内臓が悪かったなんてことも…所謂、関連痛について。また、簡単なセルフケア方法をお教えます。

### 8月18日(木) 第4回

#### 身近にある東洋思想

東洋思想は身近に反映されていることが多いです。これらを応用した東洋医学は、「五臓」の働きが重要であると考えます。東洋医学の世界も一緒に学んでみましょう。

### 9月15日(木) 第5回

#### はじめての薬膳♪

薬膳と言葉は聞けけれど、一体なんだろう? 難しそう…高そう…のイメージが一変! 自身の体調に合った食材や料理について、難しそうな薬膳を身近に感じていただけます。



## みどり内科

### クリニック 内科・消化器科

注射でラクな内視鏡検査できます。

白石区本郷通13丁目南4-27 ムトウビル2階 ☎866-4563 P有

## 自然食ホロ

札幌市東区中沼西5条2丁目3-16  
TEL: 887-6224

いつも喜んで、感謝して。

<http://holo.sunnyday.jp/>

## 東デモール マウベシ珈琲

オーガニックカフェやショップで販売中  
フェアトレードの美味しいコーヒー!!

NPO 法人 ほっかいどうピーストレード  
TEL 070-5619-3222  
hokkaidopeacetrade@gmail.com

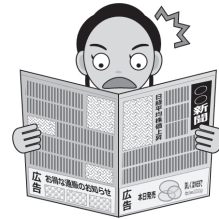


## 20. 新聞がなくなる!?



長い間報道の中心であった新聞の購読数が急激に減っており、あと数年でその役割を終えるのではとされている。このような動きは一見市民の選択のように見えるがはたしてそうなのか。実は流されているだけではないのだろうか。報道は今デジタルに移行しつつあるが、安全性は保たれていくのか。溢れる情報の渦の中で、私たちはこれからどのように正しい情報を得ていったらいいのだろうか。共に考えて行きましょう。

日程 5月12日(木) 開講 全5回 月1回第二木曜 18:45 ~ 20:45  
会場 愛生館サロン (愛生館ビル6F 南側奥)  
参加費 通し 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円  
(単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回)  
コーディネーター 雨宮 恭子 (あまみやきょうこ)



さっぽろ自由学校「遊」理事 子どもの頃からどっぷり新聞に浸かって60余年。

### 5月12日(木) 第1回

**新聞が危ない!**  
—今、新聞が直面している問題

- 飯島 秀明 (いじま ひであき)  
元北海道新聞記者・「遊」会員
- 市民の声 (何人かをお願いしています)

購読者の減少、報道に対する圧力や自主規制、デジタル化への対応、読みたい記事の減少等、今新聞が抱えている問題を新聞側と市民側から話題提供していただき、参加者で話し合います。

### 6月9日(木) 第2回

**私と情報**  
—市民は今日のように情報を得ているか?

- 佐藤 碧 (さとう あおい)  
大学生・さっぽろ自由学校「遊」のインターンを経験
- 巻瀧 悠 (まきぶち ゆう)  
サービス付き高齢者向け住宅職員
- 遠藤 昌子 (えんどう しょうこ)  
さっぽろ自由学校「遊」会員

自分はどのように情報を得ているのか、なぜ新聞を読まなくなったのか、それぞれのメディアの特徴等について3世代の方に話題提供してもらい話し合います。

### 7月14日(木) 第3回

**今流れている情報って安全なの?**

- 豊巻 絹子 (とよまき きぬこ)  
打倒!新自由主義の「遊」会員

デジタル情報・紙情報の安全性、報道に対する圧力・自主規制、デジタル化の原因と問題点等、課題の嵐の中で市民はどう動くべきなのか。正しい情報を得るためには市民がメディアをしっかり見張り声を上げることが必要では…。

### 8月11日(木) 第4回

**取材の力**

- 山田 香織 (やまだ かおり)  
新聞「ひらく」代表・記者

ネット情報と新聞等の情報の一線を画するものは、取材して記事を書いていることだという。報道現場ではどのような取材が行われているのか。苫小牧市で「紙の街の小さな新聞:月間『ひらく』」を発行している山田香織さんに聞きます。

### 9月8日(木) 第5回

**新聞(情報)交流会**  
—市民がメディアを育てる

私の新聞の読み方、一押し記事、がっかりした記事、新聞(情報)活用法、こんな記事が読みたい、これからの新聞はこうなってほしい、新聞はなくなってもいいのか?市民がメディアを育てるためには等々…。参加者全員で語り合います。

## 21. カムカム英語と戦後英語教育 —英語との付き合い方を考えるために



1946年2月からNHKで新しい英会話番組が始まった。平川唯一氏が講師をつとめ、戦後の一時期を風靡したカムカム英語である。それは「戦後の太陽のような存在」だったと言われる。本講座では平川氏自らが編集・復刻したテキストと録音テープをもとに同番組を追体験しながら、下記のテーマにそって英語との付き合い方はどうあるべきかを考えてみたい。毎回、資料と録音によってカムカム英語を追体験するとともに、テーマにそって問題提起と自由討議を行う。

日程 5月25日(水) 開講 全5回 月1回第四水曜 18:45 ~ 20:45  
会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)  
参加費 通し 一般5000円 会員4,000円 25歳以下2,000円  
(単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回)  
講師 小山内 洸 (おさない たけし)  
元北海道教育大学教授、専門:英語教育/道新英研顧問



### 5月25日(水) 第1回

**戦後の英会話ブームはなぜ起きたか**

爆発的に売れた?日米会話手帳?やカムカム英語に見られる英会話ブームはなぜ起きたのかを、英語が敵性言語とみなされた時代と戦後デモクラシー時代とを対比して考察する。  
カムカム英語のテーマソングを聴いて歌ってみる。

### 6月22日(水) 第2回

**カムカム英語の教材と教授法の特徴**

カムカム英語には場面の選び方や会話の構成、また教え方について、独創的な工夫がみられる。それぞれについて特徴的なポイントを概観して、大人から子どもまで聴取者の圧倒的な支持を受けた理由を探る。  
復刻版テキスト Lesson 1 の追体験。

### 7月27日(水) 第3回

**アメリカの対日文化政策の光と陰**

英会話熱の高まりの反面で、日本を半永久的にアメリカ依存の関係に置くことをねらった文化政策があった。その実態がどのようなものであったかを諸文献をもとに概観し、参加者による自由討議で深める。  
復刻版テキスト Lesson 4 の追体験。

### 8月24日(水) 第4回

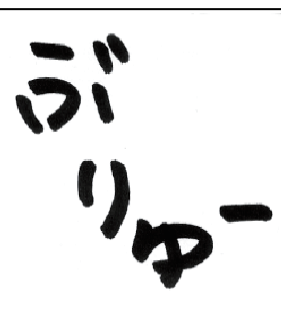
**戦後の英語教育は  
どのような内容で始まったか**

戦後初の学習指導要領を概観するとともに、長年にわたり圧倒的な発行部数を誇った中学校英語教科書 Jack and Betty の内容と構成を分析・評価する。  
復刻版テキスト Lesson 7 の追体験。

### 9月28日(水) 第5回

**日本人が「国民教育」として  
英語を学ぶ意義は何か**

いくつかのトピック(小学校英語、オールイングリッシュ、成績づけの仕組みなど)に関する問題提起と自由討議を通して、どう英語に向き合うべきかを考える。  
復刻版テキスト Lesson 10 の追体験。



内科・神経外科  
**札幌中央  
ファミリークリニック**  
外来一般診療  
月火・木金 9:00 ~ 11:30  
外来は予約してください  
札幌市中央区南1条西11丁目  
ワンス南一条ビル6F  
TEL.272-3455

## 22. 多文化共生、知る伝える関わる 「学びの教室」 — コリア文化を中心に



おとなりの国々の言葉や文化を親しく思って学ぶと、世界の見え方が変わり、自分との関わりが見えてくるでしょう。そんな学びの空間（教室）をいっしょに作ってみませんか。

今回は、演劇・映画や詩を中心に、人物や作品から学びます。最終回には、参加者で、感じたり、見つけたりした身近なコリア文化を伝え合います。紹介したいことがありましたら、持ち寄ってください。

日程 6月2日（金）開講 全4回 月1回第1木曜日 19:00～21:00

会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）

参加費 通し 一般4,000円 会員3,200円 25歳以下1,600円

（単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回）

コーディネーター 能登 睦美（のとむつみ）

ハングル講座を長年受講して来ました。現在さっぽろ自由学校「遊」理事。



### 6月2日（木）第1回

#### 演劇・映画「焼肉ドラゴン」

脚本・監督：鄭 義信（チョンウイシン）

在日コリアンがなぜ日本で生きているのかが垣間見えて、韓国語と日本語の混じり合った場面に熱さを感じる作品。日韓共同制作、韓国日本公式演劇交流作品。その後映画化されました。

### 7月7日（木）第2回

#### 「東アジアの記憶の場」としての

#### 尹東柱（ユンドンジュ）

●ゲスト 朴 仁哲（ぼく じんてつ）さん

中国黒竜江省生まれ、1997年来日。北海道大学教育学博士。多文化共生・国際交流研究事務所所長、特定非営利活動法人社会理論・動態研究所研究員。専門は東アジア地域研究、人の移動と移民研究など。

尹東柱は、現在の中国の朝鮮族自治州となっている「閩島」で生まれ、戦中に日本への留学（立教大、同志社大）。美しい詩を作っていた若き詩人は日本で逮捕されて獄中死を遂げます。現在も彼の詩を愛し、追悼し続ける人々がいます。

### 8月4日（木）第3回

#### 茨木のり子

#### 「ハングルへの旅」から考える

●ゲスト 花崎 皋平（はなざき こうへい）さん

1931年東京生まれ。文筆業。著書に「田中正造と民衆思想の継承」「天と地と人と - 民衆思想の実践と思索の往還から」など、詩集に「チュサンマとピウスツキとトミの物語他」「長編物語詩 アイヌモシリの風に吹かれて」（2021年に増補復刊）など。

詩を読むとは作者の生きた社会のありようを知り、生き方を探ることと思うようになりました。詩人のきらめかせた言葉は、読むもの自らの生き方を省みる契機になります。



### 9月1日（木）第4回

#### 皆さんで、感じたことやもっと知りたいことなどを伝え合いましょう。

映画やドラマ、本、料理、音楽、人物、旅、語学、ニュース・報道…

◆参考図書：「焼肉ドラゴン」鄭 義信（角川文庫）、尹東柱詩集「空と風と星と詩」金時鐘（岩波文庫）、「ハングルへの旅」茨木のり子（朝日文庫）

### ボランティア・インターン募集！

さっぽろ自由学校「遊」は、市民が自主的に運営している「学びの場」です。その運営は多くのボランティア・スタッフによって支えられています。単純作業のお手伝いといった軽い関わりから、講座のコーディネートなどの深い関わりまで、様々な関わり方が可能です。活動に興味のある方は、事務局までご連絡ください。学生などのインターンも募集しています。

＜ボランティアの内容例＞

- ・発送作業のお手伝い
- ・広報協力
- ・テープ起こし
- ・講座時の受付対応
- ・会報誌の編集
- ・講座のコーディネート など

## 23. アイヌアートデザイン教室



アイヌ民族が先住民族と認められてからまだ日が浅いですが、アイヌ文化・芸術の歴史はとても深いものです。生徒さん自身の手で作る事によって、それらの文化を身近に感じる事ができると思います。是非一度チャレンジしてみませんか。お待ちしております。



日程 4月13日（水）より

月2回 第二・第四水曜 13:00～15:00

会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）

受講料 4,000円/月（材料費は含みません）

※受講をご希望の方は、クラスの見学（1回）可能です。まずはお問い合わせください。

講師 貝澤 珠美（かいざわ たまみ）

アイヌアートデザイナー。1974年8月10日平取町二風谷に生まれる。高校卒業後デザイン学校に通い、'97年に独立。ファッション、インテリア、アクセサリー等、アイヌ文様をモチーフにしたオリジナル作品を製作している。



## 24. 読書室よりみちまわりみち



“読書が好き”“興味深い本を紹介してほしい”そんな仲間が集まる、気さくで楽しい場です。ジャンルは問いません。これまで、話題の本、ノンフィクション、旅行記、エッセイ、時代小説から現代小説まで、そして絵本、詩集、写真集、歴史、社会、経済など様々な分野の本が紹介されてきました。普段なかなか手にとることのない本を紹介され、自分の興味対象が広まったりすることも多かったです。自分がおもしろかったと思う本（電子書籍もokです）を紹介し合うことが基本ですが、そこからいろいろに話が広がったり、知らなかったことに気づかされたりすることも多く、それも楽しいです。話を聞くだけでも、おしゃべりするだけでもok、朗読もokです。是非一度、覗いてみてください！本を通して一緒に楽しいひとときを過ごしませんか？新しい仲間をお待ちしてま〜す！

日程 4月16日（土）より 全6回 月1回第三土曜 14:00～16:00

4/16、5/21、6/18、7/16、8/20、9/17

会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）

参加費 1回500円 通し2,500円





## 25. 花さんの読書ゼミ

### 新著『生きる場の思想と詩の日々』を読む

この春に刊行されたばかりの新著は18章、600ページを超える大部ですが、詩人であり、哲学者である花崎皋平さんの生きたすべてが詰め込まれています。東京に生まれ、来道し、今年で91歳になるまでの間、折々に問題整理した文章や読書ノートなどが年代順に並んでいます。1世紀をさかのぼって現代史をたどる内容です。講座では参加者が2〜3章ずつの内容を報告するとともに、著者の花崎さんに執筆当時、感じたこと・考えたことを改めてうかがいます。参加される皆さんで、「今」の来し方を探りたいと思います。

日程 5月12日(木)開講 全8回 月1回第二木曜 14:00～16:00

5/12、6/9、7/14、8/11、9/8、10/13、11/10、12/8

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 一般12,000円 会員9,600円 25歳以下4,800円

チューター 花崎 皋平 (はなざき こうへい)

1931年東京生まれ。1964-1971年北海道大学文学部教員(西洋哲学)、以後、著述業。「生きる場の哲学」「静かな大地―松浦武四郎とアイヌ民族」「天と地と人と―民衆思想の実践と思索の往還から」など。詩集に「風の通る道」など。最新刊に「詩集アイヌモシリの風に吹かれて」(クルーズ)

テキスト 花崎皋平著『生きる場の思想と詩の日々』(2022、藤田印刷エクセレントブックス、3,300+税) ※テキストは、「遊」にて購入できます。



## 26. カール・マルクス著

### 『賃労働と資本』を読む

『賃労働と資本』は数年前に遊で取り上げましたが、資本主義の一般的な本質を理解するために、ふたたび読み直すことにします。とくに、経済学だけでなく、社会・歴史観などにも配慮しつつ、ゆっくり輪読しながら、読み通します。きっと新しい発見があるとおもいます。

日程 5月4日(水)開講 全5回 月1回第一水曜 18:45～20:45

5/4、6/1、7/6、8/3、9/7

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) \*オンライン受講可

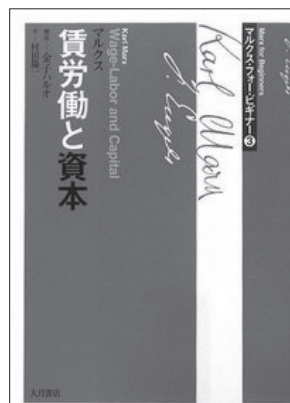
参加費 通し 一般4,000円 会員3,200円 25歳以下1,600円  
(単発 一般1,000円/回 会員800円/回 25歳以下400円/回)

チューター 宮田 和保 (みやた かずやす)

熊本県生まれ。北海道大学卒業。現在、北海道教育大学名誉教授。専門は、理論経済学(マルクス経済学)と言語理論です。せつつかれるのが極めて苦手で、マイペースでしか生きていけない性格です。

テキスト カール・マルクス著『賃労働と資本』

テキストはいろいろな翻訳がありますが、大月書店のフォー・ビギナーが読みやすさからお薦めです。 ※テキストはご自身でご用意ください。



## 27. 『人新世の「資本論」』を読む II

「人新世」とは地質学の用語で、人類の活動が地球の表面を覆いつくす年代のこと。現在は“資本主義の際限なき利潤追求が地球を破壊しつくす環境危機の時代”で、“気候変動を放置すれば、この社会は野蛮状態に陥るだろう”と著者は言う。この危機を脱出するヒントは、最近新たに注目されている晩期マルクスの草稿中に眠っていた。キーワードは「コモン」。時代を切り開く「コモン」とは何か、参加者が話し合いながら読み進めます。

日時 4月16日(土)より 全6回

月1回第三土曜 14:00～16:00

4/16、5/21、6/18、7/16、8/20、9/17

※2021年度後期からの12回連続講座です。4月は第5章から。

会場 愛生館サロン(愛生館ビル6F南側奥)

参加費 通し3,000円(単発600円/回)

テキスト 齋藤幸平著『人新世の「資本論」』

(集英社、2020、本体1,020円+税)

コーディネーター 若月 美緒子(わかつき みおこ)

大学で「資本論」を学ぶ。小学校教員退職後、「コミカフェ加伊」開店。

横森 純一(よこもり じゅんいち)

退職10年。この充実した無為徒食の日々を激しくゆさぶったのは…幸平君です。



## 28. IT勉強会

### —「分からない」を「分かる」へ

仕事や普段の生活で利用しているパソコンやスマホ、インターネットですが、用語や操作方法など分からない事がたいへん多いのが現状です。そこでこの講座では特定のテーマを決めずに、毎回参加者が不明点を自由に質問して、それを経験者が回答するというものです。また即答できない場合は、ネットにて調査し、その場で検証して、質問に対応していきます。

日程 5月13日(金)開講 全4回 第二金曜 18:45～20:30

5/13、6/10、7/8、9/9

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 通し2,000円(単発600円/回)

コーディネーター くらだとしひこ(NPO小さなカレッジ代表) 他

大学卒業後、約20年間、電機メーカーやソフトハウス等でコンピューター関係の開発業務に従事。パソコン歴40年。使用したマシンはPC8001、FM-8、PC98シリーズ、マッキントッシュ、基本ソフト(OS)はMS-DOS、DOS/V、windows、MacOS、Linuxなどを利用。



# 選んだ人とざっくばらんに！ 民主主義って何だ？ 政治家と語ろう

2015年度より始まった政治家との対話講座「選んだ人とざっくばらんに」も7年を迎えました。これまで、長期中断を挟みつつも、立憲野党系の人を中心に維新や大地も含めたほぼ全部の野党系の市町村議、道議、首長、国会議員をゲストに迎えてきました。今年度は、参院選の年になります。北海道選挙区や比例区で北海道に縁が深い候補者を中心としたゲストの政治家との対話を実現していきたいと思えます。

●会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) など ●参加費 500円/回

※開催日時・ゲストは確定し次第、ウェブサイト、ML等でご案内します。

※ゲストとの調整上、会場が変更になる可能性もあります。事前にご確認いただいたうえ、ご参加願います。

発想を変える 私たちが変わる 世界を変える

## PARC 自由学校 2022 講座のご案内

PARC 自由学校は、世界と社会を知り、新たな価値観や活動を生み出すためのオルタナティブな学び合いの場です。拠点は東京ですが、オンライン講座も多数開講！「労働・ケア・コミュニティ」を柱にポスト新自由主義の展望を考える講座、アイヌ語を学ぶ講座、『愛と差別と友情と LGBTQ+』の著者北丸雄二さんと学ぶ読書ゼミなど、今年も多彩な講座を企画しております。また、2023年のPARC50周年にむけた特別講座も多数企画。皆さまのご参加をお待ちしています！

●オンライン参加 OK の連続講座 (6月から順次開講！/全4回~15回/受講料10,000円~)

01. ポスト新自由主義：“ブルシット・ジョブ” からケアと連帯による世界へ
02. 【PARC50周年記念講座】民主主義クライシス—アジアにおける希望を探る
03. 樋口健二が語る・日本の写真家列伝
04. ポストコロナ時代のライフスタイル：都市は変わるか
05. 平和のための日韓市民連帯—未来を創る市民の力
06. 【PARC50周年記念講座】市民活動をアーカイブする：記憶と記録の継承・活用のために
07. 著者と読む『愛と差別と友情と LGBTQ+』：言葉で闘うアメリカの記録と内在する私たちの正体
08. 『モモ』で読み解く知識ゼロからの経済学入門—「お金」はなぜ格差と分断を生むのか
09. 知って使おうアイヌ語—世界の言語復興の動きとつながる
10. ケイトの” What's Happening In The World!?”
11. 武藤一羊の英文精読
12. 世界のニュースから国際情勢を読み解こう

●オンライン参加 OK の単発講座 (4月から順次開講！/1回からご参加 OK /各回500円~1,000円)

- ・【PARC50周年記念講座】問い続ける者たち—アジアと日本の歴史から描く未来
- ・来るモノ・行くモノを通して考えるアフリカと日本
- ・ワンコイン・シネマ・トーク

★もっと詳しく知りたい方は…  
詳細は、PARC 自由学校ウェブサイトをご覧ください。  
<http://www.parcfs.org/>



●お申し込み・お問い合わせ

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター (PARC)  
PARC 自由学校  
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-7-11 東洋ビル 3F  
TEL: 03-5209-3455 FAX: 03-5209-3453  
E-mail: office@parc-jp.org